



乳がん患者サポートチーム（M-CAST）発足について

Mammary cancer-associated symptoms management team



- 乳がんの治療は年々高度化・複雑化（病理結果に基づいた手術療法、放射線療法、内分泌療法など）しています。
- 手術術式の縮小化に伴い入院期間は3～7日程度となり、外来を中心に集学的治療へとなっています。
- 入院期間の短縮化や外来診療の合間でのケアにより、患者さんの治療に対するセルフマネジメントや心のケア不足の問題も生じています。
- 治療選択の支援、ボディイメージの変容へのケア、術後リンパ浮腫予防のセルフケア支援、薬物療法の有害事象に対するセルフマネジメントなど、社会生活の問題のサポートやQOLの向上を目指した治療や心のケアを提供する乳がん患者への支援体制の整備が重要です。
- **乳がん患者の治療意思決定支援や、生活のサポートをしていくチームが必要！**

M-CAST目標



- ◆ 専門性を持ったスタッフがお互いに連携して診療に当たることで、乳がん患者さんやご家族に満足感を持ってもらう。
- ◆ 乳がん患者さんが安心・納得して治療を受け、自分らしい生活が送れるように、共に協力し、支援する体制を整える。
- ◆ 多職種のメディカルスタッフと連携し、それぞれの専門性を発揮することで質の高い医療が提供できる。



水俣総合医療センターの豊富な人材: M-CAST(乳がん患者サポートチーム)構成員



医師

外科Dr



看護部

西3病棟スタッフ
化学療法認定看護師
緩和ケア認定看護師
周手術期看護師
リンパケア療養士



コメディカル

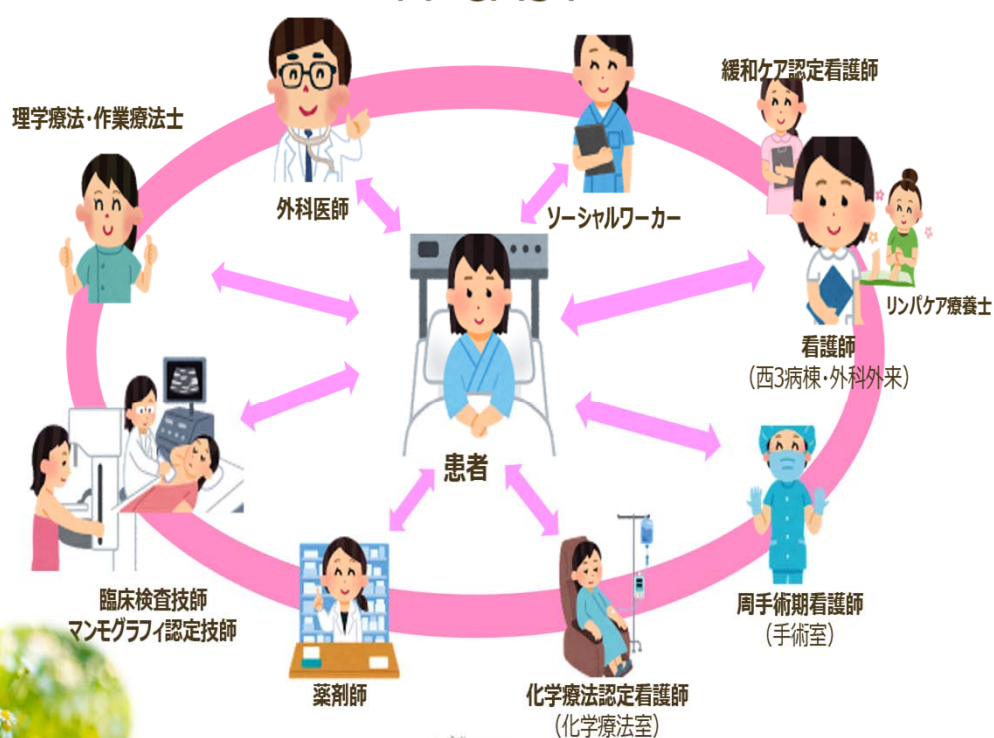
放射線科
臨床検査科
理学療法科
薬剤科



地域連携

ソーシャルワーカー

M-CAST



M-CAST概要

乳がんと共に生きる生活支援	意思決定支援	社会生活支援	自分らしさを取り戻す支援	治療に伴う学習支援
乳がん治療について 心と体の整え方 運動療法 乳がんと共に生きるコツ セクシャリティ	心理的支援 看護相談 家族ケア 転移再発患者ケア ACP 妊孕性温存、遺伝	入退院支援 就労支援 地域連携支援 在宅医療支援	ピアサポート 患者会 家族ケア 未成年の子供を持つ患者への支援 親ががんの子供たちへの支援	術前の運動療法 手術後の生活の過ごし方 リンパ浮腫予防 術後リハビリ

プレゼンテーションのタイトル

乳がんと診断された患者さんやご家族は、治療を続け、生活する中で、さまざまな課題に直面することがあります。

働く世代である患者さんにとっては、治療と仕事を両立できるような支援の提供・治療の選択に対しての支援・術後の日常生活に対する支援など…

乳がん患者さんや、そのご家族が安心した環境で治療に臨め、患者さんそれぞれの個別のニーズに応じた診療・ケアが行えるよう、私たちはサポートさせていただきます。

サポートメンバーへ遠慮なくお声かけ下さい。





乳がんサポートチーム

がん化学療法看護認定看護師

乳がんの告知や治療方針の相談の場面に同席させていただきます。
その時に患者さん、ご家族の思いや不安なことを伺い、治療方針、治療選択などの意思決定支援を行います。

乳がんの薬物療法(抗がん薬療法)では薬剤によっては高い頻度で脱毛がおこります。
また、脱毛だけでなく爪の色、皮膚の色の变化もみられ、外見支援(アピアランスケア)の重要性が高まっています。

自分の治療で脱毛するの?どんなウィッグ、帽子を準備したらいいの?スキンケア、爪のケアはどんなことに注意したらいい?このような相談に応じます。



乳がんの薬物療法って?どんなものがあるの?自分が行う治療はどんな副作用がでるの?
→がん薬物療法のお話が決まったら、その薬剤の特徴、治療スケジュール、副作用など薬剤師とともに話し、患者さんのニーズに沿って一緒に計画を考えていきます。

仕事は続けられる?まわりの人にあまり話したくない...だけど脱毛するからわかってしまう...
誰に話しておけばいい?

→仕事と両立支援のコーディネーターに繋いだり、これからの生活についてのアドバイスや不安、疑問点にひとつずつお答えし対応していきます。

AYA世代(思春期・若年成人世代を指し15歳から39歳までを対象)の患者さまへの関わり
妊孕性温存の相談を伺い、ご希望があればがん相談支援室へ繋いだり、トータル的な支援、
相談が必要な緩和ケア認定看護師へ繋がります。

乳がんの「笑みの会」が原点となっている患者会「がんサロン:未来へ」への参加もしています。
乳がん経験者が多いので興味のある方は参加されてください。
(詳細は地域支援室が担当:市報や院内各外来へ案内文書掲載しています)

子どもや親に病気のことを話
した方がいいのかな

先生には聞きにくいことが
あるのだけれど...

手術や治療について、
わからないことだらけです...

治療の副作用に
どう対処したらいいのかな

病気や治療のことを誰
かに相談したい





緩和ケア認定看護師

緩和ケア認定看護師の佐々木良子といいます。2012年に認定看護師の資格を取り、現在、外来・入院問わず、がんと診断された時から患者さん及びご家族のサポートを行っています。具体的な内容は、告知の時から同席させていただき、ご本人及びご家族の精神的ケア、検査・治療の意思決定支援、手術や抗がん剤治療に伴う症状緩和がんに伴う痛みなどの症状緩和、療養先の意思決定支援などを行っています。乳がんと診断され、治療方針やこれからの過ごし方について、色々迷われることが多いと思います。ご本人、ご家族のライフスタイルを考慮しながら、みなさまが自分らしく過ごせるように、一緒に考え、サポートさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。



薬剤師

乳がんの薬物療法には、抗がん薬による治療、ホルモン治療、分子標的薬が使われます。どの薬を使用するか、あるいは組み合わせて使うかは、病理検査で調べたがん細胞の性質や、患者さんの希望、再発リスクなどを考慮して決定されます。がんの薬物療法は、抗がん薬の投与量や投与方法が複雑で、さらに、副作用の予防あるいは軽減するための薬剤なども組み合わせる必要があることから、一人の患者さんに投与する薬剤が多岐にわたることも少なくありません。薬物治療開始時は、薬剤を投与されることに不安を感じることもあると思います。使用する薬剤はどのような働きをするのか、どのような副作用が起こりやすいか、副作用が出た時はどのようにしたらよいか、治療時における食事や日常生活の注意点など、わかりやすく患者さん・ご家族にご説明いたします。

その他にも、がんそのものの薬物療法だけでなく、合併症の治療や痛みを和らげるための緩和医療まで、私たち薬剤師は様々な場面で介入を行っています。患者さんご家族が安心して治療を受けられるようにサポートしていきたいと思いますので、お気軽にご相談ください。



西3病棟

西3病棟は、小児科・産婦人科・歯科口腔外科の混合病棟です。その他、様々な疾患の女性患者さんも受け入れており、昨年度より乳がん患者さんの手術前後や抗がん剤治療を受け入れ、幅広い看護を行っています。

乳がんは30代後半から罹患率が急増し、30～64歳の世代では乳がんは女性のがんによる死亡率一位となっています。乳がんの治療は手術や抗がん剤治療、放射線治療など多岐にわたります。乳房摘出術では、クリニカルパスという入院から退院までの決められた治療・検査・ケアのスケジュールをご説明します。手術の術式や範囲により経過は異なりますが、術後合併症や後遺症を予防できるよう術前から術後の看護を行っています。

特に、術後のリンパ浮腫や患側上肢の挙上制限予防のために、手術翌日より看護師がご説明しリハビリを開始します。リンパ浮腫が予測される方、症状がある方にはリンパ浮腫療養士が介入し、リンパ浮腫予防指導やリンパマッサージを行っています。

また、術前・術後の補助療法として抗がん剤治療を行う患者さんもいらっしゃるため、化学療法認定看護師、緩和ケア認定看護師と連携を取り合いサポートしています。その他にも、働く世代の患者さんが治療と仕事を両立するために、ソーシャルワーカーと連携した支援を行っています。

西3病棟スタッフステーション



乳がん手術患者さんの入院期間は1週間程度と短いですが、お気持ちや治療についてのご不安などを傾聴し、患者さんが抱く病状やセクシュアリティ、QOL低下への不安、羞恥心、恐怖など複雑な心の不安へ寄り添う看護を大切にしています。

西3病棟スタッフはすべて女性です。女性のライフサイクルに沿った寄り添える看護を目指し、入院中だけでなく患者さんとご家族が退院後も安心した生活を過ごせるように努めています。

リハビリテーション

リハビリテーション科では、乳がんの手術後、リンパ浮腫予防・日常生活を無理なく過ごすために機能回復訓練を早期より行っています。

状態に応じて退院後の日常生活動作の中で、リハビリが出来るよう指導を行っています。



リンパ浮腫療養士

リンパ浮腫とは、リンパの流れが滞り手足にむくみが生じる疾患です。リンパ浮腫は「先天性」と「二次性」があり多くは二次性のリンパ浮腫になります。

当院では二次性のリンパ浮腫に対して指導やケアを実践しています。二次性は、がんの手術や放射線治療により生じることが多く、「乳がん・子宮がん・卵巣がん・前立腺がん・膀胱がん」などの悪性腫瘍でリンパ節を切除された方や、放射線治療でリンパの通り道がダメージを受けることでリンパ浮腫を発症することがあります。

リンパ節を切除された方は、生涯リンパ浮腫になる可能性があります。一度発症してしまうと完治することが難しく、正しいケアを知らなければ生活にも影響が出てくるほどむくみが悪化することがあります。当院にはリンパ浮腫療養士がおり、日常生活指導や弾性着衣の選択、リンパドレナージを行っています。手術前や手術後にリンパ浮腫について知って頂けるように指導を行っています。

発症後もリンパ浮腫と上手く付き合っていけるよう支援していきたいと思いますので不安や心配がある場合はご相談ください。



地域医療支援センター

このような不安や悩みをお持ちの患者さん・ご家族は、地域医療支援センターへお気軽にご相談ください

- ・どこに相談したら良いのか分からない
- ・セカンドオピニオンとは何ですか
- ・今後の生活のことが不安
- ・医療費のことが心配
- ・仕事内容に制限はないだろうか
- ・治療をしながら仕事を続けられるだろうか
- ・活用できる公的制度はないか





乳腺超音波検査とは

臨床検査科 超音波検査室



超音波検査とは超音波を用いて体内の病変を調べる検査で、痛みもなく侵襲性のない検査です。妊娠中や授乳中でも検査可能です。

検査に使用している機器は4台あります。通常の乳腺で使用するリニアプローブに加え、超高周波の24MHzのリニアプローブがある機器が2台あり、より詳細な評価が可能です。

患者様の乳腺の性状や機器による見え方、技師の経験年数や技術などにより検査の精度は変わりますが、積極的に学会や勉強会などに参加し、検査の精度を高めるよう努力しています。

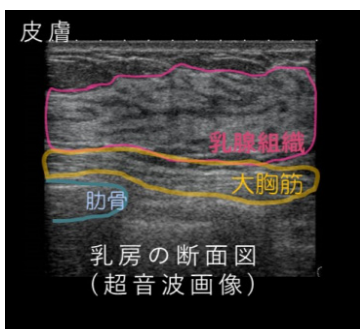
現在、当院の乳腺超音波検査が可能な技師は5名（男性技師1名、女性技師4名）、内認定資格を有している技師が4名在籍しています。



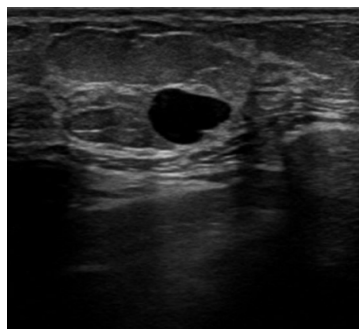
〈検査法〉

プローブを縦方向、横方向それぞれで、観察断面に隙間が生じないように少しずつずらしながら検査します。（画像は右胸）

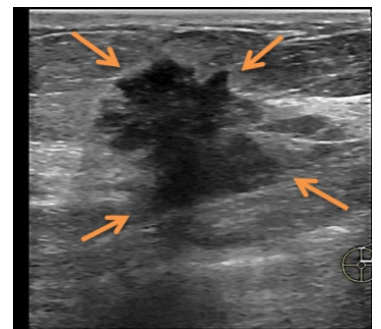
検査時間は5～20分程度です。



正常乳腺



良性腫瘍



悪性腫瘍

上記腫瘍以外にも、様々な良性・悪性腫瘍があります。

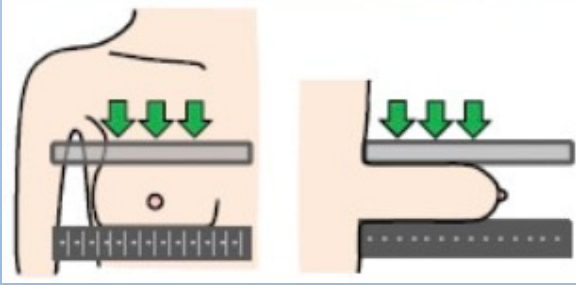
※乳癌の早期発見の為、定期的な検診をお勧めします。

マンモグラフィ検査とは？

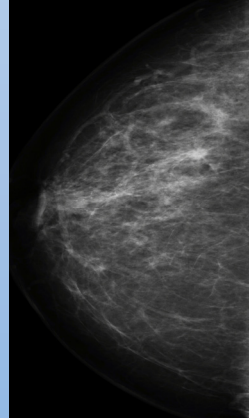
乳房をはさんで、写真を撮ります。
はさむ方向は2種類です。



CC (頭尾方向)

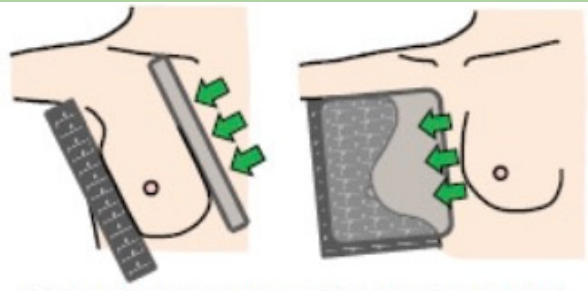


上下方向ではさんで撮影します。

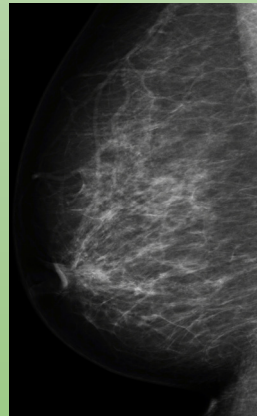


CC で撮影したマンモグラフィ画像です。
MLO で描出しきれない部分を補うために撮影します。

MLO (内外斜位方向)



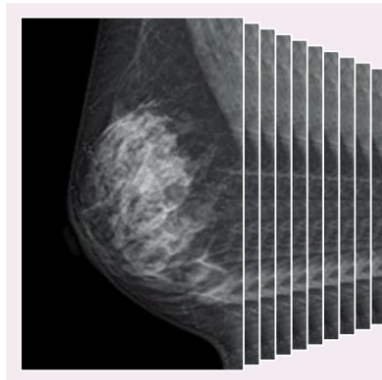
縦方向で少しなめにはさんで撮影します



MLO で撮影したマンモグラフィ画像です。
乳房を最も広く描出できる方法です。

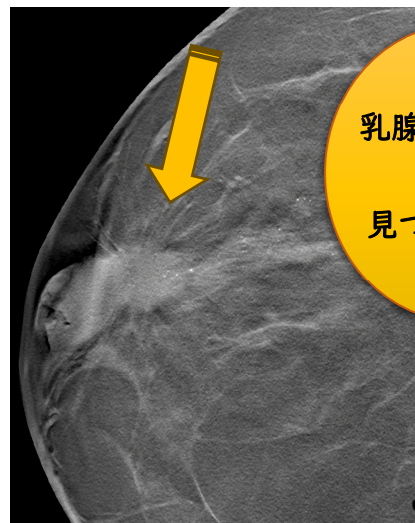


当院では、
トモシンセシス画像 (断層撮影・3D マンモグラフィ) を撮影しています！



トモシンセシス画像

左右に25度ずつ角度を振りながら
撮影し、1ミリ厚の写真が撮れます。



乳腺に隠された
病変も
見つけやすい！



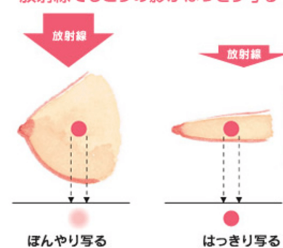
Q なぜ、乳房を押さえるの？

乳房を圧迫することにより、乳腺の重なりを少なくし、病変（腫瘍）を見やすくするためです。

また、乳房を固定することにより動きによるぶれがなくなります。

乳房を圧迫して薄くすることで、被ばく線量を減らすこともできます。

乳房を薄くひきのばすことで少ない放射線できりの影ははっきり写る



***あまりにも痛みが強くて我慢できない場合はスタッフに遠慮なくお申し出ください。**

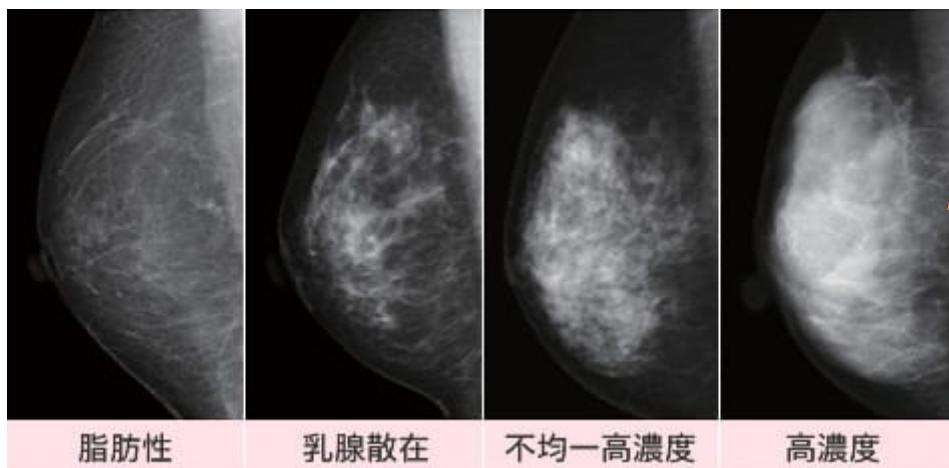
Q デンスブレスト（高濃度乳腺）って何？

デンスブレストとは、乳腺内の乳腺濃度が高いことで、病気ではありません。

日本人女性の5～8割が該当するといわれています。

デンスブレストは、乳腺が多いのでマンモグラフィで撮影した時に、全体的に白い塊の様に写し出されます。

高濃度乳腺の方は、マンモグラフィと超音波を併用して行うことで、より精度の高い乳がん検診が可能となります。



デンスブレスト（高濃度乳腺）は病気が隠れて見えづらいため、マンモグラフィだけでは、病変の発見が難しいといわれています。乳腺エコー、トモシンセシスとの併用が有効です。

ブレストアウェアネス

自分の乳房の状態に日頃から関心を持ち、乳房を意識して生活しよう



女性技師が撮影します♡

当院のマンモグラフィ検査室

